

## 6L-1

## 日本語会話文における「ダ」型表現の分析

友清睦子 鈴木雅実

ATR自動翻訳電話研究所

## 1. はじめに

ATRでは、会話文の日英翻訳システム研究・開発に資するため、電話会話を対象として会話文特性の調査と分析を行っている。「ダ」型表現(註1)は会話文に典型的に頻出する表現である[1]が、統計データなどについては、前回発表した(註2)。本稿では、通訳者が電話会話において同時通訳したものをもとにして、分析した結果を報告をする。

註1:ここでいう「ダ」型表現とは「だ」「です」および形容動詞の語尾を含み、文のムード[2]を表現する部分で「ダ」を持っている語列をさす。

註2:電話会話文46ファイルで全文数日本語1666文、対応英語文1998文 (ATR-DBより)

## 2. 英語の表現

2.1 日英の対応状況 電話上の通訳をはさんだ会話において、日本語と通訳英語の対応率は、語→句→文節→発話の順に高くなることが知られている。[2] しかしここでとりあげた語列は、文のムードあるいは話者と聞き手との間の待遇表現であり、かりに「だ」「です」の訳語にbe動詞をあてるとすると、「です」の終止形をのぞいてその対応率はきわめて低いといえることができる。一例をあげると以下の通りである。

例:「ですね」

出現回数/述語数	英語表現	出現回数	%
398/1845	Φ(なし)	241	94.5
	、(カンマ)	3	1.7
	as far	2	0.78
	Are you talking about	2	0.78
	?	1	0.25
	then	1	0.25
	for	1	0.25
	be	1	0.25
	plan(動詞)	1	0.25
	形容詞化	1	0.25
	主語化	1	0.25

「ですね」は、全「ダ」型表現語列中の23%におよぶが、この例では英語側で表現されていないものが94.5%あることを示している。

これは「ですね」が名詞や副詞・助詞などに自由に続き、会話のポーズの代わりに使われたり、または話相手が自分の話をきいているかどうかを、確

かめるかあるいは念押しの意味あいでも使われているということである。

2.2 日本語の文形との対応状況 「ダ」型表現を大きくa) 述語代用の「うなぎだ文」・完全省略(ですからetc.)、b) ムード陳述(でございますねetc.)、c) 同定判叙文・分裂文(名前は..ですetc.)の3つにわけて考えると、英語側ではa)は補完動詞・接続詞または副詞で、b)は表現されない場合も多く、c)はbe動詞で対応している。ムード陳述のなかでは、文末で昇調でのべられた場合と文中で挿入句的にのべられた場合とは、対応がまったく異なっている。

例:「ですが」(でございますが、ですがね):

be動詞	35%
speaking	29.3%
Φ	29.3%
however	3.9%
動詞化	0.5%

例:「なんですけれども」(なんです、なんですけど、なんですけども、なんですございますが、なんですございますけど):

Φ	47.1%
be動詞	38%
regarding	4.5%
for	4.5%
,	4.5%

例:「だ」

Φ	42.8%
be	28.6%
that	14.3%
動詞化	14.3%

例:「です」

be	72.6%
Φ	19.2%
動詞化	2.7%
will be hold	1.4%
will participate	1.4%

(同定と「うなぎだ文」の両方を含む)

この例では、文末の婉曲語法は無視されている。

例:「ますでしょうか」:	
?	65.4%
I would like to	10.9%
Can I ?	3.6%
Could I ?	3.6%
Φ	3.6%
Should I ?	1.8%
,please	1.8%
Is it OK ..?	1.8%
Will you...?	1.8%
I want to...	1.8%
I need to...	1.8%
be going to	1.8%

この例では丁寧表現が訳出されている。

2.3 形式名詞を含む語列 形式名詞に依存して対応する。「つもり」の場合は未来時制で、「ものですから」の場合は末尾の「から」の持つ論理性が訳出され、「わけですね」の場合は、相手側の意図の推理、「ことですね」は念押しの発話意図が英訳として現れている。

例:「つもり」+「だ」	
つもりですけれども:would/will be -ing	
つもりです:will/I would like to	
つもりだった:I meant to/I mean	
つもりでして:I'm planning	
つもりですので:be going to..	
つもりでございます:will	

例:「もの(ん)」+「だ」	
もんですから:so,Φ,be,and so,because	

例:「わけ」+「だ」	
わけですね:Φ,when I suppose, I guess,we are going to	

例:「こと」+「だ」	
ということですね:Φ,it sounds like, right?,that means..?, so,is that correct?	

2.4 否定辞をともなう語列 否定辞「ない」をともなった文末表現は日本語では非常に丁寧表現であるが、英語側でも一般に丁寧体の表現が使われている。ただし、かならずしも否定形の表現となっているわけではない。

例:「ないでしょうか」:	
I would like to	23.5%
if you could...	11.8%
Would you ...?	11.8%
be	11.8%
?	5.9%
Could you...?	5.9%
Can you...?	5.9%
,please	5.9%
Φ	5.9%

### 3.まとめ

- 1.会話文では同定・判叙の意味で「だ」「です」がつかわれることが少ないのでbe動詞との対応はまれである。(同定・判叙の意味でつかわれる時は終止形であられ7割強がbe動詞に対応する)
- 2.終助詞をともなうムードをあらわす時は、発話意図として話者の相手への何らかの要求(確認要求や選択要求)を示す場合が多く、英語側では疑問文・付加疑問文など文体的な対応をしている。
- 3.形式名詞「もの」「の」「ばかり」などを含んだ「ダ」型表現語列は各々の語の意味に依存するが英文の側では、時制の選択や動詞の選択によって表現され統語的な差異も含めておおきく異なる部分である。
- 4.文末の婉曲語法および丁寧・敬語表現は頻度が高く、英文側の対応は一定でなく、英語側の表現の方がバラエティに富んでいるかと思われる。[4]
- 5.否定辞をともなう丁寧表現は、could wouldなどを使った訳文となり、いわゆる丁寧体となっている。

### 謝辞

本研究の機会を与えて下さいましたATR自動翻訳電話研究所 樽松明 社長に感謝致します。

### 参考文献

- [1]友清他「日英機会翻訳システムにおける生成文の評価」(ATR-TR-I-0121),1989
- [2]江原「対話データベースからの頻度情報の抽出」(ATR-tr-I-0157),1990
- [3]寺村「日本語のシンタックスと意味2」(くろしお出版)、1984
- [4]Floury R.S. "Definig Constraints on the Usage of Directive Statements in English (京都大学研究報告)、1990